



參考資料

Thailand

Kenya

Bangladesh

事前研修

■国内機関研修

実施時期：平成15年6月～7月
 実施場所：JICA各国内機関
 研修内容：開発途上国の現状と課題
 ODAとJICAについて
 研修国についての概況説明

■東京研修（直前研修）

実施時期：平成15年7月29日(火)～30日(水)
 実施場所：JICA東京（TIC）

東京研修の目的

- ・全国から集う参加者の親睦を図り、現地での視察のポイントや注意点等を学ぶことにより、海外での研修をより実り多いものとする。
- ・帰国後に“総合的な学習の時間”等を利用して国際理解教育（開発教育）へ取り組む際の考え方や手法を学ぶ。
- ・研修後の情報交換に役立つ参加教員間のネットワーク作りを促進する。

東京研修日程

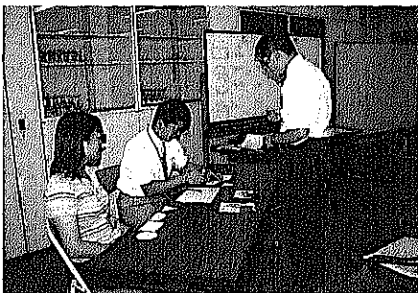
7月29日(火) 参加者同士の状況を把握しつつ、コース毎の団結をはかり、研修実施における役割分担及び現地交流の準備を行う。

第1日目

13:00～	受付開始		TIC本館ロビー
14:00～14:40	開会 1. 主催者挨拶 国際協力事業団 国内事業部長 漢 芳郎 TIC施設説明 TIC地域連携業務室 白井 宏明 2. 同行者紹介 3. 事前研修予定説明		体育館（本館1階）
14:40～15:10	コース毎自己紹介 （※9コースに分かれて実施）	下記以外のコース	体育館（本館1階）
		フィリピン	セミナールーム9
		フィジー	セミナールーム10
		タイ	セミナールーム11
15:20～	コース別ディスカッション ・JICA同行者、訪問国情報提供者を中心に現地での視察目的・ねらい、訪問先での対応等について話し合う。 （役割分担などの確認も含む）		会場は同上コース別
17:00～	渡航手続等説明 各代理店より ・パスポート他関係書類の手交と、提出方法についての説明		会場は同上コース別
17:45～	終了 - 自由時間		

7月30日(水) 海外研修後の取り組みに役立てるための国際理解教育（開発教育）の考え方や具体的な手法を学び、参加者間の問題意識・課題等の共有を図る。

第2日目

8:50~10:15 (パート1) 10:15~11:45 (パート2)	開発教育アクティビティ・授業の実践例の紹介 ・異文化やコミュニケーションについて扱ったアクティビティを実践しながら紹介する。 ・国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ具体的手法を学ぶ。 講師：出口雅子氏（ピナツボ復興むさしのネット） 臼井香里氏（開発教育を考える会・開発教育協会理事） 竹山哲司氏（全国国際教育協議会） 湯本浩之氏（開発教育協会） 綿谷亜希氏（開発教育協会）		各部屋にて集合 アセンブリールーム （本館4階） セミナールーム 9・10・11（本館4階） 体育館（本館1階）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1班</th> <th>第2班</th> <th>第3班</th> <th>第4班</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パート1</td> <td>新貿易ゲーム</td> <td>バーンガ</td> <td>“もの”ランゲージ</td> <td>フォトランゲージ</td> </tr> <tr> <td>パート2</td> <td>バーンガ</td> <td>新貿易ゲーム</td> <td>総合実践! 教材紹介</td> <td>“もの”ランゲージ</td> </tr> </tbody> </table>			第1班	第2班	第3班	第4班	パート1	新貿易ゲーム	バーンガ	“もの”ランゲージ	フォトランゲージ	パート2	バーンガ	新貿易ゲーム	総合実践! 教材紹介	“もの”ランゲージ	
	第1班	第2班	第3班	第4班													
パート1	新貿易ゲーム	バーンガ	“もの”ランゲージ	フォトランゲージ													
パート2	バーンガ	新貿易ゲーム	総合実践! 教材紹介	“もの”ランゲージ													
11:45~12:00	休憩																
12:00~	開発教育概論 講師：臼井香里（開発教育を考える会代表） ・開発教育の考え方、総合的な学習の時間への導入などについての動きを整理する。 実践報告書（教材集）作成にあたってのポイント		体育館（本館1階）														
12:40~	昼食		食堂または各自														
13:40~	教材集の作成について 国内連携促進課 関口 美紀 ・研修報告書の作成と提出に関する説明 ・実践報告書（教材集）の趣旨説明と、提出方法について		体育館（本館1階）														
14:15~	休憩																
14:30~15:45	テーマ別打ち合わせ （教科や学校で抱えている問題を出し合い、関心のあるテーマについて話し合いながら、模擬授業案を作成する。もしくは、作成に必要なポイントをまとめる。興味・関心別によるテーマ別ディスカッション）		体育館（本館1階）														
15:45~16:00	休憩																
16:00~16:45	テーマ別ディスカッション 内容発表		体育館（本館1階）														
16:45~17:00	休憩																
17:00~19:00	結団式 国内連携促進課長 小幡 俊弘		体育館（本館1階）														

※研修は独立行政法人化以前に行われたため、機構名、担当課名は旧称で表記されています。

コース別日程／参加者氏名

タイ Thailand

月日	曜日	時間	行 程	宿泊地
7月31日	木	11:05	成田空港出発	バンコク
8月1日	金	10:00 15:00	JICAタイ事務所ブリーフィング ITED (タイ教育情報技術開発能力向上) プロジェクト視察	バンコク
8月2日	土	9:00 午後	市内見学 (腕の寺、エメラルド寺院、王宮) マーケット視察 Shopping	バンコク
8月3日	日	9:00 11:00 14:30	アユタヤへ移動 アユタヤ歴史教育センター見学 ホームステイ先顔合わせ・ホームステイ	アユタヤ
8月4日	月	7:30 12:30 14:30 16:30	学校見学・意見交換・職員との交流会 (ニッタヤンクル学校) アユタヤ遺跡見学 SV活動現場視察 (ラチャモンコン工科大学) バンコクへ移動	バンコク
8月5日	火	10:30 13:30	コンケンへ移動 TRAUMA project視察 (コンケン病院付属外傷センター)	コンケン
8月6日	水	9:30 15:30 18:00	青年海外協力隊活動現場視察 (コンケン大学 日本語教師・宮口隊員) 青年海外協力隊活動現場視察 (パタナバ女性福祉職業訓練校 青少年活動・茶山隊員) JOCVとの夕食懇談会	コンケン
8月7日	木	10:30	バンコクへ移動 教材の収集	バンコク
8月8日	金	9:00 13:30 18:30	障害者支援プロジェクト視察 (アジア太平洋障害者センター) NGO活動現場視察 (レデンプトリスト職業学校) 事務所員との夕食懇談会	バンコク
8月9日	土	8:40 16:40	バンコク発 成田着	

氏 名	所 属 学 校 名	氏 名	所 属 学 校 名
たかた ゆきこ 高田由紀子	鳥取県鳥取大学教育地域科学部附属養護学校	いらく とむひろ 伊福 智弘	長崎県立島原農業高等学校
かわい ひさかず 河合 久和	岡山県立岡山南高等学校	ひろかわ ゆみ 廣川 由美	大分県立中津北高等学校
しおた とちみ 塩田 朋美	岡山県立玉野光南高等学校	いだて ゆきこ 井立由貴子	熊本県立大矢野高等学校
みづら ゆきこ 三浦由希子	島根県立吉賀高等学校	おくだ きよひで 奥田 清英	福岡県立小倉盤学校
みよし てるのり 三好 輝徳	香川県立志度高等学校	こまげ じろう 小管 雨郎	沖縄県立名護商業高等学校
わたなべ のぶゆき 渡邊 信之	徳島県立阿波高等学校	ひが すえこ 比嘉 末子	沖縄県立沖縄盲学校
もりした まこと 森下 誠	高知県立中村高等学校定時制	やまもと のりこ 山本 典子	沖縄県立八重山商工高等学校

ホームステイでは、決して裕福とはいえない家庭でしたが、親戚や近所の方々が次々と集まってくださり、たくさんのご馳走とフルーツと、あたたかな笑顔で迎えられ、人々の心のやさしさをいっぱい感じ取ることができました。

鳥取大学教育地域科学部附属養護学校 高田由紀子

これらの自立支援プロジェクトは、取りも直さず、現在のタイ国の課題でもありました。プロジェクトからタイ国の課題とともに工業化へのエネルギーを感じました。そして、国際協力の基本は自立にあると思いました。

岡山県立岡山南高等学校 河合久和

日本人のアジアに対する一方的な優越感を一層感じるようになりました。これからは過去の戦争を反省しながら、アジアの一員として、平等なパートナーとしての態度をきちんととってゆかなくては、日本人は無作法なはだかの王様になってしまうと感じました。

岡山県立玉野光南高等学校 塩田朋美

障害者職業学校での障害者のリーダーを育てる。コンケン病院トラウマプロジェクトでの「予防」が大切ということ。各プロジェクトの、的確に問題・原因を捉え、必要な措置を講じる。というようなことは、普段の教育現場でも実践しなければならないことだと思った。まだまだ医療面、ライフライン(水等)確保、農業などがままならない国・地域を最優先に援助すべきではと思う。

島根県立吉賀高等学校 三浦由希子

ホームステイではタイの農村の生活を知ることが出来、現地の高校生や家族の方と話す機会をもてたことは大変有意義であった。経済的にはASEAN諸国の中で上位の国であるが、まだ国内には、貧富の差、社会保障、交通網、女性問題など様々な問題が山積していることが分かった。

香川県立志度高等学校 三好輝徳

今回の視察を通して参考になったのは1パーツの

価値を知ったことだ。昼の研修では国家政策、諸施設の管理・運営などマクロな経済・社会が多くを占めた。研修開始前の早朝や夜は屋台めぐりなどミクロな経済の仕組みの研修機会だった。

徳島県立阿波高等学校 渡邊信之

「情けは人の為ならず」の諺があるとおり援助は他国のためではなく自国のためになっている。この援助により恩知らずにならないですむし、国際社会での日本の地位も向上している。ただ、一時的な発展や生活の質の向上が真の幸福に繋がるか。

高知県立中村高等学校定時制 森下 誠

私たちが視察させていただいた現在行われているプロジェクトは、医療・IT・障害者の自立支援など、先進国のものほとんど相違ないものでした。JICAの方々の話によると、タイは先進国の支援からほとんど自立できるところまできている国だという説明でした。しかし、やはり都市集中型は免れず、バンコクとその他の地域との格差は、かなり大きいように感じました。

長崎県立島原農業高等学校 伊福智弘

アユタヤでは、ホームステイを経験して、タイの一般庶民の生活を味わえた。特に、私を泊めていただいた家庭は、経済的に恵まれていなかったが、心から温かくもてなされたことに感謝している。タイで出会った人は皆ラマ国王を敬い、宗教への信仰のあつい人々だった。

大分県立県立中津北高等学校 廣川由美

2回目のタイは、個人旅行では経験できないことを訪問・視察できた充実した研修でした。それまで途上国だと思っていたタイですが、私の中では経済成長率や施設設備の充実のほかには人の心についても進んだタイが頭に焼き付いています。

熊本県立県立大矢野高等学校 井立由貴子

私たちは一般的には、ある国を訪問する時、その国の素晴らしい文化や習慣ばかりを見聞し、又現地の

人たちも影の部分の隠しがちだが、今回の研修では、学校（2種類の異なる大学と中等学校）、教育省、病院、障害者訓練施設、女性地位向上のための訓練施設、早朝の街の様子、昼の街の様子、夜の街の様子等々、様々な角度からタイ国の文化風俗を見聞する機会が得られた。

福岡県立小倉壘学校 奥田清英

プロジェクト、JOCVの視察を個人で行うことは困難であろうし、この目で確かめた日本の国際協力について子ども達に自分の言葉で語ることができる。また、ホームステイ、学校訪問では人々との交流によるお金では買えない“感動”を得ることができた。事前研修があることで、写真の撮り方、お土産の買い方が単なる興味本位でなく、授業に生かす視点を持って行えたことは大変有意義であった。

沖縄県立名護商業高等学校 小管爾郎

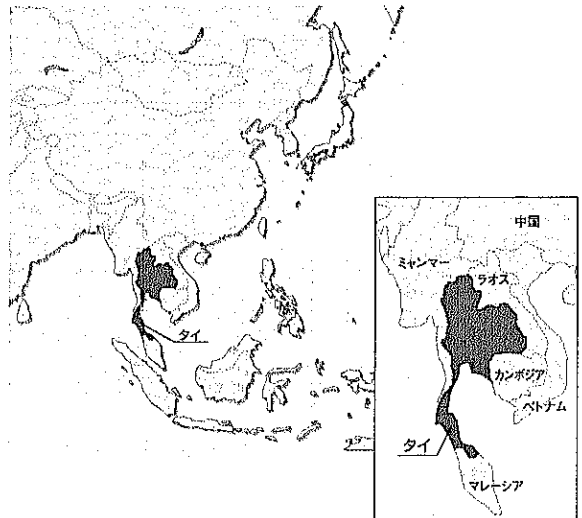
NGO活動現場であるレデンプトリスト職業学校で、

身体障害者の方がパソコンの研修をしていて、非常に生き生きと活動していることが印象に残りました。技術を身につけて、障害者を持った方がリーダーとなり、障害者の方の指導にあたっていているということにも感激しました。障害を持っているということ、支援される側の人であるという見方をしてしまっていた自分の考え方を反省させられました。

沖縄県立沖縄盲学校 比嘉末子

小さい頃から興味をもっていた「JICA」「青年海外協力隊」等現場を視察できたことが、何よりもうれしい出来事でした。沖縄・東京の事前研修会から始まり、終了まで、出会った全ての人が「夢」や「知的的好奇心」「協力する心」をもって、生き生き活動していることに感動しました。日本という国を背負う中での国際貢献は、大変難しいと思います。しかし、その活動に裏づけされる皆さんの努力が「自信」という形として私に伝わり、本当にまぶしく思えました。

沖縄県立八重山商工高等学校 山本典子



コース別日程／参加者氏名

ケニア Kenya

月日	曜日	時間	行 程	宿泊地
7月31日	木	10:25	成田空港出発	
8月 1日	金	6:10 10:30 15:00	ナイロビ国際空港着 JICAケニア事務所 オリエンテーション ナイロビ日本人学校視察	ナイロビ
8月 2日	土	10:30 15:00 17:00	リフトバレー州立病院訪問 VCT (自発的カウンセリングと検査) センター訪問 リフトバレー科学技術専門学校訪問 (安井隊員・自動車整備 活動現場視察) ナクル国立公園見学	ナクル
8月 3日	日	9:00 11:30	ナクル湖国立公園内視察 ナクル下水施設見学	ナイロビ
8月 4日	月	9:30 14:00 17:30	国際連合ケニア事務所訪問 UNEP/UNCRD日本人職員の活動紹介、施設見学 AMDA (アジア医師連絡協議会) 活動視察 (スラムのキベラ地区訪問) 聖メリーズプライマリスクール訪問	ナイロビ
8月 5日	火	10:30 12:15 14:00 15:30	キコム セカンダリースクール訪問 (林隊員・理数科教師 活動現場視察) キコム セカンダリースクールの生徒たちと昼食会 林隊員住居視察 マクエニ県教育事務所訪問 一般農家視察	ナイロビ
8月 6日	水	10:00 13:30 15:30 19:00	SMASSE (中等理数科教育強化計画プロジェクト) 視察 KWS (ナイロビ国立公園・環境教育プロジェクト) 視察 今泉専門家・安部隊員活動現場視察 HCDAナイロビ視察 (善田専門家との懇談) 専門家・青年海外協力隊員との懇談会	ナイロビ
8月 7日	木	9:00 11:15 13:30 14:30 16:30 19:00	KISM (ケニア国立地理学院) 視察 宇根専門家と懇談 NYS (ケニア国立青年職業訓練所) 視察 JKUAT (ジョモ・ケニヤッタ農工大学) 視察 AICAD (アフリカ人造り拠点プロジェクト) 視察 在ケニア日本大使館訪問 浅見大使表敬・研修報告 日本大使公邸 夕食懇談会	ナイロビ
8月 8日	金	10:00 15:30	エンブ市役所訪問 (小田・林隊員活動視察) メルー上下水道公社施設視察	モンバサ
8月 9日	土	10:30 14:30 16:00	ムエア灌漑プロジェクト見学 SCC (Save The Children Center) による貧困層の生活改善プロジェクト視察 ナイロビへ	ナイロビ
8月10日	日	10:00 15:30 22:20	ナイロビ国立博物館視察 研修報告会 ナイロビ国際空港発	

実際キベラを自分の足で歩き、SCCでその子ども達の抱えている問題に直面するとケニアの貧富の格差・二重経済構造を感じずにはいられません。そんな中「物質的援助」「資金援助」といったハード面だけでなく、ソフト面の協力として、ケニア社会に溶け込み日本代表として着実な努力を続けられている協力隊員の皆様の姿がとても印象的でした。

東海大学付属第三高等学校 野溝 薫

ケニアでは、アジア系の人の姿が街中でも田舎でもほとんど見られません。しかし、案内していただいた先々 (失礼かもしれませんが、こんな遅鄙な田舎に日本人がいるのかと疑ってしまうこともありましたが) で地道に奢らず、誇りを持って活動しておられる日本人の方々にお会いでき、本当に感銘を受けました。また、インフラ整備もさることながら、やはり現地の方々との人としてのつながりや理解がい

氏名	所属学校名	氏名	所属学校名
のみの 野満 かおる 薫	長野県 東海大学付属第三高等学校	かとう 加藤 なほろ 尚浩	大阪府立豊島高等学校
みずの 水野 まさし 雅史	静岡県 島田学園高等学校	みなみ 南 みさえ 美佐江	奈良県 奈良女子大学文学部附属中等教育学校
たかぎ 高木 ゆうこ 裕子	岐阜県立大垣北高等学校	いひだ 池田 なほひろ 尚弘	和歌山県立耐久高等学校
やまもと 山本 とむのこ 智彦	愛知県立東海商業高等学校	おおかた 岡田 さとみ さとみ	京都府立久御山高等学校
なかしま 中島 ゆみ 由美	静岡県立韭山高等学校	むらせ 村瀬 まさのり 正則	大阪府立三島高等学校
たけなか 竹中 たかし 隆司	石川県立翠星高等学校	いずみ 泉 しんいち 伸一	兵庫県立神戸高塚高等学校
なけうち 竹内 みづみ 美幾	石川県立鶴来高等学校	しが 志賀 てるあき 照明	兵庫県 神戸市立摩耶兵庫高等学校
辻 辻 りょう 良隆	大阪府 大阪市立南高等学校		

●同行者 鈴木桃子 JICA大阪

かに大切であるか肌で感じました。

島田学園高等学校 水野雅史

研修を終えて一番の感想である、「日本とケニアは違う」という前提がそのままの部分と「これは同じだ」と気付いた部分がある。(家族で囲む)温かいごはんの大切さや人としての生活など「人として同じ」という実感を得て、特別な「問題として語るべき」存在ではなく身近な国となったように思う。

岐阜県立大垣北高等学校 高木裕子

事前研修で治安の悪さを教えられ、現地に行っても車での移動が原則でナイロビの街中を自由に歩けなかったり、ビデオや写真撮影の制約が多かったのが残念であったが、キベラのスラム内を歩く事ができ、そこで活動しているNGOの人達の話を直に聞いたことが有意義であった。

愛知県立東海商業高等学校 山本智彦

「学校に行くこと、行けるということ、勉強すること」ということが何よりも素晴らしいことだとする話は、「学校に行きたくない」という叫びに対峙することも多い日本での教員生活を考えると、大きなギャップを感じた。まさに価値観の違いがストレートに心に響いてきた。

静岡県立韭山高等学校 中島由美

安井隊員のリフトバレー科学技術専門学校では自動車修理の教材が恐ろしく不足していて、途方に暮れる様子がよくわかりました。Kyumuセカンダリースクールの林隊員の自宅を訪れたときには、まさに電気やガスが十分でない生活でその中でたくましく努力される様子に感銘を受けました。

石川県立翠星高等学校 竹中隆司

まず考えていた以上に多様な援助方法があることに驚いた。ODAでも何年にもわたる大規模な灌漑施設や上下水道の計画から、アフリカの人づくり拠点、中等理数科教育強化計画など人材育成への支援まで、また大使館の草の根無償資金協力で建てられた学校やJICAのNPO支援など、様々な場面で日本の援助がケニアの国づくりに大きな役割を果たしていることが分かった。

石川県立鶴来高等学校 竹内美幾

ありとあらゆる事が参考になりました。車中から見る現実のアフリカの様々な風景は、地理教師として格好の生の教材研究となりましたし、JICA職員や視察先の方々(隊員・専門家・NGOの日本の方や現地の方)のお話、さらに現地ガイドや警備担当との会話もケニア理解のための重要な内容を含んでいました。

大阪市立南高等学校 辻 良隆

私にとって最も印象深かったのは、キベラのスラムと横森夫妻、Kyumuセカンダリースクール、SCC (Save the children center) であった。当国の「政治」すら見向きもしない?キベラにあって、裁縫学校・木工所・健康センター (エイズ相談含む) など、そこに溶け込んで運営しておられる若いお二人の、ケニア人スタッフに向けられる笑顔と的確な説明に感銘を受けた。

大阪府立豊島高等学校 加藤尚浩

同じ援助といっても、援助先によって違いがありすぎる(都市と地方によっても)と感じた。さまざまな困難の中、懸命に問題に取り組んでおられる多くの日本人ボランティアの方々の姿に感動し、自分たちにできる事は何か、生徒たちと真剣に考えていこうという気持ちを新たにしました。

奈良女子大学文学部附属中等教育学校高等学校 南美佐江

視察に参加してまず感じたことは、JICAスタッフを初めこの国で活動している日本人の方々の活躍する姿の眩しさや使命感の大きさです。遠く本国を離れ、地域によっては電気や水道設備が無いなど、自らの能力を十分に発揮できるとはいえない環境にあって、懸命にまた充実感を持って活動している姿に触れ、とてもまぶしい思いをしました。

和歌山県立耐久高等学校 池田尚弘

今回研修させていただいたところは、二国間援助による無償資金協力と技術協力が中心ということで、学校や病院・下水処理場などの諸施設の見学と、将来を担う「人づくり」を目的として、共に活動する青年海外協力隊の方々の活動を視察しました。中でも、協力隊の活動については、現地の人々との直接的な交流・貢献とともに隊員自らの青年育成の場ともなっているようで、大変好感が持てました。

京都府立久御山高等学校 岡田さとみ

ケニア一国だけでも、日本がたいへんな援助・協力をしていることに驚きました。一つ一つの援助・協力が、ケニアの発展に役立っているかどうかは、見る・聞く時間が短く、残念ながら、判断できるまでには至っていません。しかし、研修日程が進むにつれて、ケニアで遅れているのは、「物」ではなくて、「人材、制度」ではないかと思うようになりました。

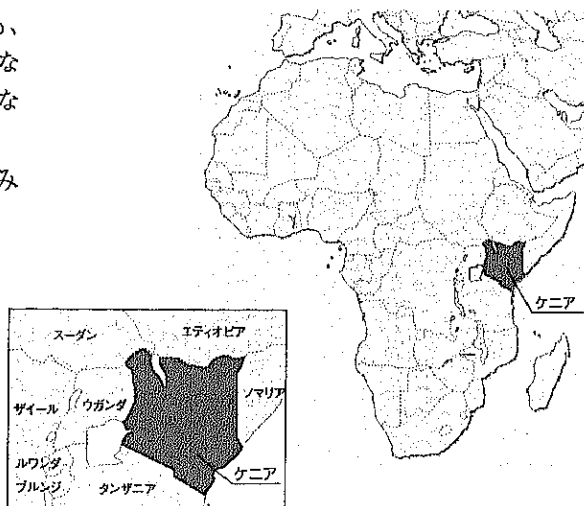
大阪府立三島高等学校 村瀬正則

ケニアの人々の生活が多様で、幸福とは何なのか、生き甲斐とはなんなのかを考えさせられました。伝統的自給農業で生活し、雨が降れば種をまき、実ったら収穫し、現金が必要になれば収穫の一部を売り、ゆったりと生活する人がおり、一方、ナイロビには、田舎から出てきてスラムに住み、仕事もなく収入もないため最低の仕事をする人もいます。日本から輸入した新車に乗り、大きな家に住む金持ちもいます。

兵庫県立神戸高塚高等学校 泉 伸一

視察を通して参考になったことは、とくにリフトバレー州立病院のVCTセンターの訪問で母子感染した子どもの病棟を見学中に子どもが死亡し、母親が号泣している場面に直面して大きな衝撃を受けたこと。さらに専門家、青年海外協力隊員との懇談会で多くの有意義な話が聞けたことはとても参考になった。専門家として喜多先生の園芸作物やケニアに人生をかける情熱には圧倒された。

神戸市立摩耶兵庫高等学校 志賀照明



コース別日程／参加者氏名

バングラデシュ Bangladesh

月日	曜日	時刻	行 程	宿 館 地
7月31日	木	12:00	成田空港出発	
8月 1日	金 (休日)	11:00 15:00 19:00	市内見学 (ニューマーケット) 国立博物館 見学 帰国研修員同窓会によるJICA設立記念式文化会参加	ダッカ
8月 2日	土	9:00 12:30 19:00	リプロダクティブヘルス人材開発プロジェクト 視察 市内の高校視察 (Dhanmondi Government Girls High School) 協力隊員との懇談会	ダッカ
8月 3日	日	9:30 12:00 15:00	JICA事務所にて事業概要説明、教育分野専門家 (山本専門家) との意見交換 技術訓練校視察 (電気機器:小松俊之隊員、電子器機:板倉清弘隊員) BRAC (NGO) によるSchool for Nonformal education (Gazipur) 視察	ダッカ
8月 4日	月	10:00 15:00	住民参加型農村開発行政支援計画プロジェクト視察 SSS (NGO) による学校視察 (Rescue and Rehabilitation Program for Children of Commercial Sex Workers)	マイメンシン
8月 5日	火	11:00 12:30 14:30	シャンティバラ小学校 視察 (理数科教師:喜岡利砂隊員) リソースセンター、モデル小学校 視察 中等教育訓練校 視察 (理数科教師:丸山奈津子隊員)	マイメンシン
8月 6日	水	9:00 11:00 14:30	現地高校 (Mymensingh Zilla School) 視察 ダッカへ出発 身障者リハビリセンター視察 (工作機械:山本昇司隊員)	ダッカ
8月 7日	木 (午後 休日)	9:00 13:30 15:30 19:00	私立高校 (English Medium School Scholastica Private Ltd.) 視察 JICA事務所 研修報告 日本大使館表敬訪問・研修報告 JICA事務所員との懇談会	ダッカ
8月 8日	金 (休日)		市内見学 (ショドルガット港・川下り・ヒンズー教寺院・サリー工場)	ダッカ
8月 9日	土	10:00 11:30 23:55	サバル独立記念塔見学 女性農業研修センター視察 ダッカ発	ダッカ
8月10日	日	5:50 9:45 17:35	シンガポール着 シンガポール発 成田着	

氏 名	所属学校名	氏 名	所属学校名
まつだ たけし 松田 剛史	北海道 富良野市立富良野東中学校	おの てつお 小野 徹生	埼玉県立所沢中央高等学校
ささき 佐々木あすさ	北海道 帯広柏葉高等学校	たきざわ ゆうき 滝澤 祐樹	新潟県立新発田農業高等学校
たに ひろと 谷 弘人	北海道高等聾学校	あべ ちえこ 阿部智恵子	栃木県立野沢養護学校
わたなべ かおり 渡辺佳穂里	北海道真駒内養護学校	たかまつ みき 高松 美紀	東京都立九段高等学校
しばた 柴田いくよ	山形県 山形市立商業高等学校	くろさき はるみ 黒崎 春美	栃木県立氏家高等学校
しらつ ますこ 白津祈恵子	宮城県 尚綱学院女子中学高等学校	いしとび かずよし 石飛 一吉	東京都 多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校
なしだ たかし 梨子田 たかし	岩手県立釜石商業高等学校	おがわ まさひろ 小川 雅弘	神奈川県立伊志田高等学校
ききもと ゆうこ 笹本 裕子	東京都立篠崎高等学校		

●同行者 安藤洋子 JICA東京

これまで自分自身がバングラデシュに対してもっていたマイナス的なイメージが変わり、「また行きたい国」「何かをしたい国」になっていきました。現地ではさまざまな施設で多くの人々との交流もありました。

富良野市立富良野東中学校 松田剛史

協力隊員や専門家が、言語はもとより、異なる価値観・文化の中で試行錯誤しながら、早急ではなく、じっくりと関わっていく姿を垣間見ることができたこと。バングラデシュ人主体のNGOの取り組みを学校訪問などとおして見るることができたこと。

北海道帯広柏葉高等学校 佐々木あずさ

私自身も出発前、バングラデシュといえば、インドのイメージに洪水がプラスされた程度のものでした。それが今回の研修で、経済成長、出生率減少、米の自給など多くのことを歴史的背景も交えながら学ぶことができ、この国をととても身近に感じることができるようになりました。

北海道高等聾学校 谷 弘人

国内での事前研修の際に、「自分がかかりを持った国の人とは、絶対に戦争をしようとは思わない。」という言葉が心に残っています。研修先や道ばたでであった子ども達や大変親切にもてなしてくれた人達、物珍しそうに私達を見ていたおじいさんなど、言葉や環境を越えての人間同士の交流はなによりも人間の心をひきつけ、地球人としての自覚を持たせてくれるものと感じました。

北海道真駒内養護学校 渡辺佳穂里

日本の援助がいわゆるハードや技術面だけを伝えてくるのではなく地元にとけこみ、認められて活躍していることに非常に感銘を受けた。それも多く若い人々によって行われていることにとても勇気付けられ励まされ、光を感じた。

山形市立商業高等学校 柴田いくよ

この国は、貧しいのではなく貧富の格差が本当に大きいのだと感じました。けれども好奇心に満ちた

笑顔と気さくで素朴な気性を持つベンガル人たちと触れ合い、物質的な豊かさとの心の豊かさのものさしは同じであってはならないと、今更ながらに気づかされました。

尚綱学院女子中学高等学校 白津祈恵子

私が見たり聞いたりしたことを断片的にセンセーショナルに伝えることは簡単ですが、結局は偏見を助長していきだけになってしまうような気がします。時間をかけて調査を重ねて真摯な姿勢で、正確なバングラデシュの全体像に迫っていく必要性を感じました。

岩手県立釜石商業高等学校 梨子田 喬

国を越えて、文化を越えて支援や協力をするとき大切なのは、相手がのびてくることがポイントである、ということを感じました。「住民参加型農村開発行政支援計画」は、確かに農村の人々の手で村が確実に動いているという実感があつたし、村民もそれを自負しているように感じられました。ただ、その筋道をつくるのはとても大変だとも思いました。

都立篠崎高等学校 笹本裕子

住民参加型農村開発行政支援計画プロジェクトにおける矢嶋専門家の度量の広さ・現地の方々を立てる姿勢・現地の方々との連携の姿に、国際協力の素晴らしさと必要性、さらには原点を見たような気がする。何十年かかるか分からない企画に立ち向かう姿勢には、数多くのご苦勞もあつたと思うが、尊敬の念を感じた。

埼玉県立所沢中央高等学校 小野徹生

「今この瞬間も世界では数多くの人々が病気や貧困、飢餓で苦しんでいたり、亡くなっている」ということはよく耳にします。この研修の前までは頭では分かっている、実感が湧きませんでした。しかし、今は目を閉じてバングラの子どもの顔が目に見えます。やはり「百聞は一見に如かず」ということがいかに大切であつて、説得力を持つものなのかがよく分かりました。

新潟県立新発田農業高等学校 滝澤祐樹

現地スタッフとの事前連絡が徹底していないことがあり、日程（主に時間）の変更が何度かあった。予定どおりいかないことに少々イライラしたが、今になって思えば、バングラデシュ人の時間に対する感覚や現地で活動する隊員や専門家の方々のご苦労が分かってよかった。

栃木県立野沢養護学校 阿部智恵子

実際に援助の現場を見、携わっている方とお話をする機会があり、机上だけではない援助の実際と一緒に感じる事が出来た。援助に人が基本であるということ、自分で実感できたことはとても貴重な経験となった。

都立九段高等学校 高松美紀

住民参加型農村開発視察では、「我々の意図が受け入れられるまでに2年近くかかりました。それまでは、ただ『何をくれるの？何をしてくれるの』ばかりでした」という隊員の言葉が印象的でした。

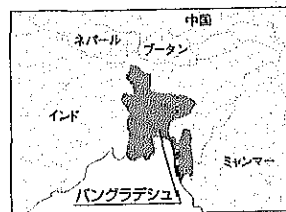
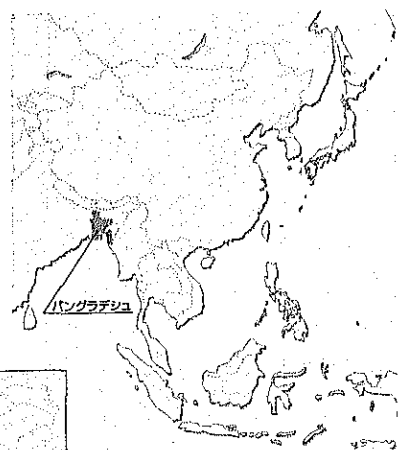
栃木県立氏家高等学校 黒崎春美

住民参加型農村開発行政支援計画プロジェクトは、JICAスタッフが自負するだけのことはあって10年近い年月と人をかけ、村民との話し合いを重ねた結果だと思った。中央政府の上意下達型の行政制度のなか、地方自治が成立していないところで、下から身近な要求をくみ上げ計画の立案から予算（目的税の徴収）までを実行する村落委員会の立ち上げまでの苦労が感じられた。

多摩大学附属聖ヶ丘高等学校 石飛一吉

高校の地理授業では1時間も使わないで教えていたこの国で、1億4千万人の人々が一生懸命生きている姿を目に焼き付けました。また日本の若者達がこの国のために一生懸命努力している姿に感動を覚えました

神奈川県立伊志田高等学校 小川雅弘



訪問国概要

タイ王国 (Kingdom of Thailand)

1. 概要

面積	51万4,000km ²
人口	6,346万人 (2002年)
首都	バンコク
人種	大多数がタイ族。その他、華僑、マレー族、山岳少数民族等。
言語	タイ語
宗教	仏教 95%、イスラム教 4%

2. 経済 (単位:米ドル)

主要産業	2003年のGNPにおいて非農業部門の割合は約9割。うち工業部門は35%を占める。GNPに占める農業の地位は低下しているが就業人口の約4割を占める重要産業である。
GDP ^{*1}	1,431億ドル (2003年)
一人当たりGDP	2,236ドル (2003年)
経済成長率	6.7% (2003年)
物価上昇率	1.8% (2003年)
失業率	2% (2003年)
総貿易額	(1) 輸出 784億ドル (2003年) (2) 輸入 742億ドル (2003年)
主要貿易品目 (2002年)	(1) 輸出 コンピューター、集積回路、自動車・部品、天然ゴム (2) 輸入 電気機械・部品、産業用機械、原油、化学製品、集積回路
貿易相手国 (2003年)	(1) 輸出 1.米国 2.日本 3.シンガポール 4.中国 5.香港 (2) 輸入 1.日本 2.米国 3.中国 4.マレーシア 5.台湾
通貨	バーツ
為替レート	1ドル=約40バーツ (04年6月現在)
経済概況	タイは、80年代後半から日本を始め外国投資を梃子に急速な経済発展を遂げたが、その一方で経常収支赤字が膨張し、不動産セクターを中心にバブル経済が現出した。その後、バブル破壊に伴い不良債権が増大し、経済の悪化を背景にバーツ切り下げの圧力が高まり、97年7月、為替を変動相場制に移行するとバーツが大幅に下落し、経済危機が発生した。タイ政府は、IMF及び我が国を始めとする国際社会の支援を受け、不良債権処理など構造改革を含む経済再建に努力した。タイ政府の財政政策を含む景気対策、好調な輸出などにより低迷を続けていた経済は回復基調に転じた。2001年2月に発足したタクシン政権は、従来の輸出主導に加えて国内需要も経済の牽引力とすることを訴え、農村や中小企業の振興策を打ち出している。タクシン政権の内需拡大政策の奏功と見られる個人消費の活性化等により、最近では経済の回復傾向が見られ、2003年の経済成長率は、6.7%と経済危機後最も高い数字を記録した。

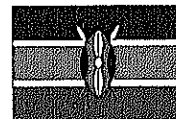
3. 経済協力

我が国の援助実績	(1) 有償資金協力 116.97百万ドル (2001年度) (2) 無償資金協力 2.50百万ドル (2001年度) (一般無償資金協力については、93年度を以て卒業) (3) 技術協力実績 90.12百万ドル (2001年度)
主要援助国(1999年)	(1) 日本 (2) ドイツ (3) デンマーク (4) 豪州 (5) フィンランド

※1 GDP…Gross Domestic Product 国内総生産

一定期間に国内で生み出された付加価値の総額。GNP (国民総生産) が外国に暮らす国民の生産量も含むのに対しGDPは国内のみの生産を測る指標。

ケニア共和国 (Republic of Kenya)



1. 概要

面積	58.3万km ² (日本の約1.5倍)
人口	2,868万人 (1999年：国勢調査)
首都	ナイロビ (155万人)
人種	キクユ人、ルヒヤ人、カレンジン人、ルオ人等
言語	スワヒリ語、英語
宗教	伝統宗教、キリスト教、イスラム教

2. 経済 (単位：米ドル)

主要産業	(農) コーヒー、紅茶、サイザル麻、綿花、とうもろこし、除虫菊 (工) 食品加工、ビール、タバコ、セメント、石油製品、砂糖 (鉱) ソーダ灰、ほたる石
GNI ^{※1}	128億米ドル (2003年推定：世銀)
一人当たりGNP ^{※2}	360米ドル (2002年：世銀) 400米ドル (2003年推定：世銀)
経済成長率	1.3% (2003年推定：世銀)
物価上昇率	9.8% (2003年：EIU)
失業率	不明
総貿易額	(1) 輸出 17.42億ドル (2) 輸入 31.37億ドル
主要貿易品目 (2002年)	(1) 輸出 紅茶、園芸作物、コーヒー、石油製品 (2) 輸入 機械、石油製品、自動車、食用油
貿易相手国 (2003年)	(1) 輸出 ウガンダ、英、タンザニア、オランダ (2) 輸入 ア首連、英、日本、米
通貨	ケニア・シリング (K.shs)
為替レート	1ドル=81.25シリング (04年10月14日現在)
経済関係	比較的工業化が進んでいるものの、コーヒー、茶、園芸作物などの農産物生産を中心とする農業国。農業がGDPの約25%、労働人口の約60%を占める。90年代後半、旱魃及びエルニーニョ現象による大雨のため農作物やインフラに深刻な被害が生じ、治安の悪化もあって、成長率はここ数年低水準にとどまっていたが、01年は農業生産の回復もあり、前年のマイナス成長からプラス1.2%に転じた (02年は1.1%)。 2004年3月、隣国ウガンダおよびタンザニアの3ヶ国間で対外共通関税同盟に署名した。

3. 経済協力

我が国の援助実績 (2000年までの累積 技協はJICAベース)	(1) 有償資金協力 1,736.25億円 (2) 無償資金協力 760.56億円 (3) 技術協力実績 683.83億円
主要援助国 (1999年 単位：百万ドル)	(1) 日本 (58.6) (2) 英 (55.0) (3) 米 (38.9) (4) 独 (37.2)

※1 GNI… Gross National Income 国民総所得

※2 GNP… Gross National Product 国民総生産

一定期間に国内で生み出された付加価値の総額。GDPと異なり海外(日本)での出稼ぎ労働に対する賃金や対外資産(負債)から生ずる財産所得の受け取りが反映される。

バングラデシュ人民共和国 (People's Republic of Bangladesh)



1. 概要

面積	14万4千km ² (北海道の約1.7倍)
人口	1億2,925万人、人口増加率：1.48% (2001年、バングラデシュ統計局)
首都	ダッカ
人種	ベンガル人が大部分を占める
言語	ベンガル語 (国語)、成人識字率：48.7% (1998年、政府統計局)
宗教	イスラム教徒88.1%、ヒンズー教徒10.5%、仏教徒0.6%、キリスト教徒0.3% (1991年国勢調査)

2. 経済 (単位：米ドル)

主要産業	縫製品・ニット製品産業、水産業、ジュート加工業、農業
GDP*1	51,897百万ドル (02/03年度)
一人当たりGDP	389 (02/03年)
経済成長率 (GDP)	5.3% (02/03年)
物価上昇率	5.14% (02/03年)
総貿易額 (01/02年)	(1) 輸出 6,492百万ドル (2) 輸入 8,699百万ドル
主要貿易品目 (02/03年)	(1) 輸出 衣料品 (49%)、ニット (25%)、エビ (5%)、ジュート (4%)、革製品 (3%)、 その他 (14%) (2) 輸入 繊維・繊維製品 (25%)、機械機器 (14%)、鉱物 (11%)、農産物 (10%)、化学 品 (8%)、その他 (32%)
主要貿易相手国 (02/03年)	(1) 輸出 米国、ドイツ、英国、フランス、オランダ、イタリア (日本11位) (2) 輸入 インド、シンガポール、中国、日本、韓国、台湾 (日本4位)
通貨	タカ
為替レート	1米ドル=約58タカ
経済関係	(1) 02/03年度補正予算にて年次開発予算 (ADP) を大幅に削減するなど財政緊縮政策を実施したが、03/04年度予算 (03.7-04.6) は、税制改革による歳入強化を財源とする財政拡張型の予算。教育、保健、医療セクターを中心とする貧困削減を重視。 (2) 懸念されたイラク戦争やSARSも同国経済に大きな影響を与えることなく、02/03年度のGDP成長率は01/02年度 (4.4%) から回復し再び上昇 (5.3%)、03/04年度の成長率は5.5% (暫定値)。 (3) 2004年末に予定される多国間繊維協定 (MFA) の失効により、MFAの輸出割当 (クォータ) を通じて現在同国が享受している欧米市場での比較優位が失われることが懸念されている。同国政府は法人税減税以外には特段の対策を採っていない。総輸出の約75%を占める縫製業の競争力強化、また縫製業に代わる新たな輸出産業の育成が引き続き課題となっている。

3. 経済協力 (単位：億円)

我が国の援助実績 (2003年度)	(1) 無償資金協力 13.78億円 (2) 技術協力 23.1億円 (3) 合計 36.88億円
DAC内主要援助国 (2002年OECD資料**)	(1) 日本 (2) 英国 (3) 米国 (4) オランダ (5) デンマーク

*1 GDP…Gross Domestic Product 国内総生産
一定期間に国内で生み出された付加価値の総額。

*2 OECD…Organisation for Economic Co-Operation and Development 経済協力開発機構

開発教育関係団体および教材紹介

開発教育や開発問題について、もっと詳しく知りたい方々のために開発教育を実施している団体や授業で使える教材／書籍をリストアップしてみました。JICA刊行のものについては、最寄のJICA国内機関にお問合せ下さい。

開発教育関係団体 ①セミナー開催 ②講師の派遣 ③資料の収集・開発・提供 ④スタディーツアー ⑤機関誌の刊行 ⑥その他

全国国際教育研究協議会

事務局：東京都立蒲田高等学校
〒144-0053
東京都大田区蒲田本町1-1-30
TEL 03(3737)1331
FAX 03(3737)1714
URL <http://www.kokusaiken.com/>
①～⑤、⑥授業の中での開発教育の実践

(特活)国際協力NGOセンター (JANIC)

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
アバコビル5階
TEL 03(5292)2911
FAX 03(5292)2912
e-mail global-citizen@janic.org
URL <http://www.janic.org/>
①②③⑤、⑥NGO市民情報センター

(特活)名古屋NGOセンター

〒450-0033
愛知県名古屋市中村区名駅南1-20-11
NPOプラザなごや3階北室
TEL 052(588)3680
FAX 052(588)3680
e-mail info@nangoc.org
日・月・祝日休み。開所時間13:00～17:00
訪問の場合は事前に要連絡。
URL <http://www.nangoc.org/>
①②③④⑤

(特活)関西NGO協議会

〒530-0013
大阪府大阪市北区茶屋町2-30
TEL 06(6377)5144
FAX 06(6377)5148
e-mail knc@ak.wakwak.com
月～金および第2・第4土曜13:00～18:00
URL <http://park15.wakwak.com/~knc/>
①②③④⑤、⑥関西NGO大学

(特活)開発教育協会

〒112-0022
東京都文京区小石川2-17-41
富坂キリスト教センター2号館3階
TEL 03(5844)3630
FAX 03(3818)5940
URL <http://www.dear.or.jp/>
①②③⑤、⑥開発教育情報センター

(特活)国際理解教育センター (ERIC)

〒114-0023
東京都北区滝野川1-93-5
コスモ西楽鴨105
TEL 03(5907)6064(テキスト係)
03(5907)6054(研修係)
FAX 03(5907)6095
e-mail eric-net@try-net.or.jp
月～金の10:00～18:00
訪問の場合は事前に要連絡
URL <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>
①②③④⑤、⑥カリキュラム開発など

(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会

〒169-8611
東京都新宿区西早稲田2-3-1
早稲田奉仕園内
TEL 03(3202)7863
FAX 03(3202)4593
e-mail info@shaplaneer.org
火～土の10:00～18:00
日曜、月曜、祝日休み。
URL <http://www.shaplaneer.org/>
①②③④⑤、⑥パン格拉デシユ・ネパールの手工芸品輸入販売

(特活)シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

〒160-0015
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F
TEL 03(5360)1233
FAX 03(5360)1220
e-mail info@sva.or.jp
月～金の10:00～17:30 土、日、祝日休み
訪問の場合は事前に要連絡
URL <http://www.jca.apc.org/sva/>
①②③④⑤、⑥

(財)国際協力推進協会 (APIC)

〒112-0012
東京都文京区大塚5-3-13
小石川アーバンビル8F
TEL 03(3947)2491
FAX 03(3947)4491
URL <http://www.apic.or.jp/plaza/>
①②③、⑥国際協力プラザ

(社)協力隊を育てる会

〒160-0013
東京都新宿区露岳15 日本青年館内
TEL 03(3402)2153
FAX 03(3402)3263
e-mail mail@sojocv.or.jp
月～金の9:30～17:30
URL <http://www.sojocv.or.jp/>
①②③⑤、⑥小さなハートプロジェクト

(社)青年海外協力協会

〒160-0013
東京都渋谷区広尾4-2-24
広尾青年海外協力隊訓練所内
TEL 03(3406)9151
FAX 03(3406)9160
e-mail info@joca.or.jp
月～金の9:30～17:30
URL <http://www.joca.or.jp/>
①②③⑤

(財)日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
TEL 03(5789)2013
FAX 03(5789)2033
URL <http://www.unicef.or.jp>
①②③、⑥図書館

(社)日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-3-1
朝日生命恵比寿ビル12階
TEL 03(5424)1121
FAX 03(5424)1126
URL <http://www.unesco.or.jp/>
①②③④⑤

■開発教育教材

コーヒーカップの向こう側
～一杯のコーヒーから考える世界の貿易～(仮題)



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,260
発行：2005年春(予定)

身近なコーヒーを題材に、生産国の現状と世界の流通のしくみを理解し「いい貿易とは何か」を考えるシミュレーション教材。生産者が抱える様々な問題や「南」の国々の低開発に貿易がどう関わっているかに気づくことができる。最新のデータを入れ、使いやすとした改訂版。中学生以上向き。

パーム油のはなし
～「地球にやさしい」ってなんだろう?～



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,890 発行：2002年

ポテトチップスやチョコレート、アイスクリームなどの原料となる天然の植物性油脂として、日本では「地球にやさしい」とされているパーム油。生産国で起こっている問題を知り、その問題が生まれる構造を理解し、私たちの消費生活を振り返ることで「地球にやさしい」とは何なのかを考えることをねらいとした教材。中学生以上向き。

「開発教育」ってなあに?
開発教育Q&A集[改訂版]



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,000 発行：2004年

開発教育とは何か、どのように実践するのかを分かりやすく紹介した入門書。「理論編」ではねらいや手法、歴史など、「実践編」では学校やNGO、自治体などでの実践例を紹介。

つなぐれ開発教育
～学校と地域のパートナーシップ事例集～



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,050 発行：2001年

学校と地域が様々な形でパートナーシップをとりながら開発教育や国際理解教育について取り組んでいる国内外の14の事例を紹介しつつ、パートナーシップのあり方や今後の課題を明らかにしている。

もっと話そう!
平和のためにできること



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,260 発行：2003年

戦争や紛争の原因を掘り下げ、平和を築くために一人ひとりが出来ることを考えるためのアクティビティーを多数紹介。授業はもちろん、市民グループの集まりなど様々な場面で使える。

ワークショップ版
世界がもし100人の村だったら



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,200 発行：2003年

ベストセラーになった「世界がもし100人の村だったら」(マガジンハウス刊。池田香代子再話)の参加型学習教材。「100人村」のメッセージに込められた人口、教育、富の分配など世界の格差と多様性を考えるアクティビティーを掲載。単に「日本に生まれてよかった」という感想に留まらず一歩理解を進める工夫がなされている。

グローバル・エクスプレス
1-5号



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：1号¥1,050 2-5号¥840
発行：2004年

時事問題を教室で学ぶための教材。各号ごとのテーマに沿って数種類の授業展開例とワークシートが掲載されている。メディアで流れる情報を自ら深く分析し、考える力や「南」で起きていることと私たちの日常生活を結びつけてニュースを読むグローバルな視点を養うことを目的としている。第1号「ニュースに耳を傾ける(基本編)」、第2号「攻撃を超えて(9.11同時多発テロとイスラム)」、第3号「難民(難民、日本における難民政策)」、第4号「イラク(イラク問題、紛争の解決)」、第5号「紛争報道(イラク戦争と報道)」。

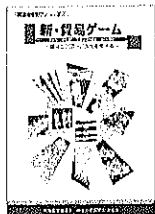
開発教育キーワード51



問合せ先：開発教育協会
TEL 03(5844)3630
定価：¥1,575 発行：2002年

開発問題・開発教育・国際理解に関する基本用語を明確にし、それぞれの関連性を整理した用語集。

新・貿易ゲーム
～経済のグローバル化を
考える～



冊子
有料

問い合わせ先：開発教育協会
TEL 03 (5844) 3630
定価：¥840 発行：2001年

「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考えることを目的としたシミュレーションゲーム。

参加型学習で世界を感じる
開発教育実践
ハンドブック



冊子
有料

問い合わせ先：開発教育協会
TEL 03 (5844) 3630
定価：¥2,100 発行：2003年

この一冊で開発教育の手法と学習プログラムとが学べる実践ハンドブック。参加型学習の基本的な手法（アクティビティ）や事例を紹介するほか、開発教育を「総合的な学習」の時間などで扱うための学習プログラムと教材を12のテーマでまとめている。大好評の既刊「いきいき開発教育」「わくわく開発教育」を一冊にまとめたもの。

**持続可能な開発のための
学び 別冊【開発教育】**



冊子
有料

問い合わせ先：開発教育協会
TEL 03 (5844) 3630
定価：¥1,260 発行：2003年

「持続可能な開発のための教育」とはどのような教育なのか、持続可能な社会をつくるためにどのような実践が求められているのかを考察するとともに、地域での学びの実践の事例も紹介。2005年からはじまる「国連・持続可能な開発のための教育の10年」に向け、理論と実践をまとめたハンドブック。

一教室と世界をつなぐ
開発教育教材カタログ
2003



冊子
有料

問い合わせ先：開発教育協会
TEL 03 (5844) 3630
定価：¥1,575 発行：2003年

1995年以降に制作・発行された国内外の開発教育教材約150点を収録した教材カタログ。開発や環境、国際理解、国際協力などのテーマを扱うグローバルな視点を持った教材を収集し、体系的に整理している。

地球の仲間たち



CD-ROM
有料

製作：開発教育を考える会
販売：有限会社INT
TEL 03 (5725) 5688
FAX 03 (5725) 5689
URL <http://www.nakamatashi.jp/chikyu/> (体験サイト)

定価：
シングルライセンス(個人用) ¥5,700
5台ライセンス(授業用) ¥27,500
22台ライセンス(授業用) ¥120,800
学校無制限ライセンス(授業用) ¥180,800

世界19カ国、20人の子どもたちの生活やものの考え方などを500枚を超える写真と解説文で紹介。日常生活のほか、将来の夢や直筆メッセージも含まれており、クイズに参加しながら子ども達の生の声が伝わるように工夫されている。また、子ども達の暮らしを題材にした英語の質問も音声(英文・日本語訳つき)で組み込まれていて、英語の授業にも対応可能。

掲載国：ベルギー、ヨルダン、ネパール、フィリピン、エチオピア、ガーナ、USA、ホンジュラス、エクアドル、パヌアツ、パプア・ニューギニア他

**「地球の仲間たち」
フォトランゲージ版**



写真
別売
テキスト
別売

製作：開発教育を考える会
FAX 046 (255)1867
e-mail: chikyu@group.email.ne.jp
定価：¥800(テキスト別売¥500)

世界の子どもの写真5枚(A4版)に加え、写真解説、子どものメッセージカード、読み札カードがセットになっている。全25カ国(価格は1カ国あたり)。同じ地球の仲間たちの生活を知ってもらうことをねらいとしたフォトランゲージ教材。別売りのテキストには教材の使い方と授業に役立つワークシートを掲載。

地球家族
世界30か国のふつうの暮らし



書籍
有料

写真提供 (株)ユニフォトプレス

問合せ先：TOTO出版
TEL 03 (3402) 7138
定価：¥1,893+税 発行：1994年

世界30か国の平均的な家族の持ち物と暮らしのレポート。家族の持ち物を全て自宅前に並べた家族の写真からその国に暮らす人の普通の生活が見えてくる。各国の家族の写真には詳細な一家の持ち物や家族のプロフィールやインタビューが掲載され、読み物としても奥が深い。

続 地球家族
世界20か国の女性のくらし



書籍
有題

写真提供 (株)ユニフォトプレス
問合せ先: TOTO出版
TEL 03 (3402) 7138
定価: ¥2,476+税 発行: 1997年
地球家族・世界30か国のふつうの暮らしの続編。世界20か国の女性の日常(家事、子ども、夫、希望、夢、他)についてインタビュー。前作同様、豊富な写真と女性のプロフィールも掲載されている。単なる暮らしの紹介のみならず、生い立ち、悩みを通して一人の人間の姿が見えてくる。巻末には、各国の基本データが掲載されており登場人物の暮らす国の状況も同時に知ることが出来る。

国際理解
重要用語300の基礎知識



書籍
有題

問合せ先: 明治図書
TEL 03 (3946) 3151
定価: ¥2,660+税 発行: 2000年
国際理解教育を広い定義にとらえ、かなり幅広い分野から重要養護を選び解説した用語集。国際理解教育、平和教育、環境教育、開発教育など12項目に分け、関係の深い用語を項目ごとに掲載するなど工夫されている。

世界の子どもたち
-NGOの現場から-



書籍
有題

問合せ先: 明石書店
TEL 03 (5818) 1171
定価: ¥1,000+税 発行: 2002年
世界6カ国で厳しい状況にある子どもたちを題材としたアクティビティー集。各国ごとの情報、子どもにまつわる物語とともに参加型学習の例が掲載されている。子供たちが直面している厳しい状況のみならず、豊かな文化やエネルギーにも目が向くように工夫されている。小学生以上向き。

多文化子どもの歌集
Ciranda, Cirandinha
-輪になるう-



CD-ROM
有題

問合せ先: (特活)多文化共生センター
TEL 06 (4395) 1377
定価: CD ¥2,500
ブックレット(歌詞) ¥800
CD・ブックレットセット ¥3,000

中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語の童謡(各3曲)を集めたCDとブックレット。CDは歌のみ(歌詞カードなし)。曲はいずれも各言語圏でよく歌われている簡単なもの。ブックレットには歌詞と日本語訳の他、歌に合わせて遊びや踊りがあるものについては、その説明もついている。歌詞にはカタカナで読み仮名が振ってあるので子どもにも読みやすい。音楽の授業は勿論、総合的な学習の時間にも使える。小学校向き。

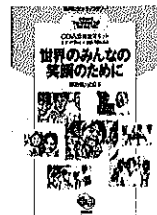
協力隊体験を伝えよう2
~生きる力を育てるワークショップ集~



冊子
有題

問合せ先: 青年海外協力協会
TEL 03 (3406) 9151
定価: ¥1,000 発行: 2002年
青年海外協力隊員経験者による授業の実践報告集。派遣国で経験した現地の文化、生活、人々のエネルギーをとおして日本の子どもたちに「生きる力」を伝える実践例が掲載されている。

ODA開発教育キット
世界のみんなの笑顔のために



貸出可
ビデオ
副読本

問合せ先: 国際協力推進協会
TEL 03 (3947) 0491
社会・総合的な学習の時間に対応したビデオ教材。小学校6年生向け。ベトナム、カンボジアを例としたODAが解説されている。

国際理解教育



書籍
有題

問合せ先: 清水書院
TEL 03 (3260) 5261
定価: ¥1,800+税 発行: 1999年
相互理解、異文化理解、多様性、意志伝達、国際協力、自然環境などについて「総合的な学習の時間」で実際に行なわれた国際理解についての授業の実践事例集。

地球市民教育のすすめかた
ワールド・スタディーズ・ワークブック



書籍
有題

問合せ先: 明石書店
TEL 03 (5818) 1171
定価: ¥2,500+税 発行: 1997年
参加型学習の実践事例集。「森林環境」「性別にまつわる問題」「食べ物」などテーマごとにアクティビティーを紹介。また、地球市民教育を学校で行う際の評価の方法も記載されている。

国際協力用語集 第3版



書籍
有題

問合せ先: 国際開発ジャーナル社
TEL 03 (3584) 2191
定価: ¥3,000+税
国際協力に携わる人から初心者まで幅広く知識を得ることができる用語辞典(約1,000語を収録)。

地球買いモノ白書



書籍
有題

問合せ先: コモンズ
TEL 03 (5386) 6972
定価: ¥1,300+税 発行: 2003年
身近な商品は、どこで作られ、どうやって私たちの生活にやってくるのか。モノを作る原料を探ると、世界の環境や生産者の境遇が見えてくる。消費社会に暮らす私達の生活を見つめ直すきっかけにもなる。総合学習に最適な一冊。

**国際理解ハンドブック
中国と出会う**



有料
書籍

問合せ先: 国土社
TEL 03(5348)3710
定価: ¥1,600 + 税 発行: 2000年
中国語で話して歌って、作って遊ぶ。作って食べたり、物語を読む。中国の文化を体験できる手引書。国際理解の入り口として最適。中国理解のための基本データや北京の小学生の一日、在日中国人の物語も掲載。

**国際理解ハンドブック
フィリピンと出会う**



有料
書籍

問合せ先: 国土社
TEL 03(5348)3710
定価: ¥1,600 + 税 発行: 2002年
フィリピンの料理、遊び、歌を楽しいイラストと文章で紹介。フィリピンと日本の関わりや在日フィリピン人の現状など読み物としても充実している。

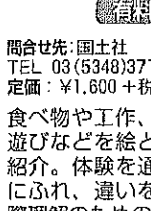
国際協力ガイド2006



有料
冊子

問合せ先: 国際開発ジャーナル社
TEL 03(3584)2191
定価: ¥1,200 + 税
学生でもすぐに取り組めるボランティア情報が満載。進学にも役立つ国際協力の情報を集めたガイドブック

**国際理解ハンドブック
韓国・朝鮮と出会う**



有料
書籍

問合せ先: 国土社
TEL 03(5348)3710
定価: ¥1,600 + 税 発行: 1999年
食べ物や工作、言葉・音楽・遊びなどを絵と文で楽しく紹介。体験を通して異文化にふれ、違いを認め合う国際理解のための本。

**国際理解ハンドブック
ブラジルと出会う**

有料
書籍

問合せ先: 国土社
TEL 03(5348)3710
定価: ¥1,600 + 税 発行: 2001年
地球の反対側にあるブラジルと日本の間には、どんなつながりがあるのでしょうか。料理や歌、言葉や遊びなどを体験しながら学ぶ、国際理解のための本。

クロスロード



有料
定期
刊行物

問合せ先: 協力隊を育てる会
TEL 03(3402)2153
定価: ¥310
「顔の見える援助」の最前線で活躍している青年海外協力隊の活動をはじめボランティアの生の声を伝える雑誌(月刊)。

国際協力



有料
定期
刊行物

問合せ先: 国際開発ジャーナル社
TEL 03(3584)2191
定価: ¥6,000(年間購読)
途上国の現状やJICA事業に関する様々な情報を取り扱ったJICAの月間広報誌。

JICAフロンティア



有料
定期
刊行物

問合せ先: 国際協力出版会
TEL 03(3372)6771
定価: ¥6,000(年間購読)
JICA事業を幅広く紹介している広報誌。国内での国際協力活動紹介など掲載。読みやすく国際協力の現状を解説。

国際協力プラザ

以下のページからアクセス・閲覧が可能
<http://www.apic.or.jp/plaza/>
問合せ先: 国際協力プラザ事務局
(財)国際協力推進協会内
TEL 03(3947)0491
政府開発援助(ODA)を中心とした国際協力に関する総合的な月間情報誌。

大きな地球のテーブルで



冊子
有料

問合せ先: (社)国際食糧農業協会 (FAO協会)
TEL 03(3297)5621
定価: ¥525
国際協力を食糧問題から解説した一冊。世界でどのくらいの人々が飢えているのか、開発途上国ではなぜ食糧が不足するのか、世界が食糧不足になったら日本はどうなるかななどを項目別に判りやすく解説。世界と私たちの生活との関連を考えるきっかけとして各項目ごとに課題が設定されており、この一冊で食糧問題をあらゆる角度から学べる構成になっている。中学～高校向き。

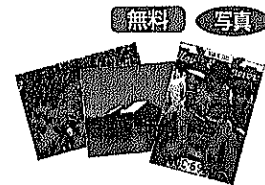
アリンゴと日本のママ



有料
冊子

問い合わせ先: 国際協力推進協会
TEL 03(3947)0491
定価: ¥945
アフリカでの国際協力の例をモデルに、現地の人々と日本の女性の心の交流を描いたマンガ。子供たちが国際協力の興味を持つきっかけ作りに適している。

**JICAフォトランゲージ
キット**



無料
写真

問合せ先: JICA国内機関 P89参照
世界7カ国の風景、日常生活、子どもたちの写真(5枚1セット)で構成された開発教育教材。授業で使えるアクティビティー集も付いていて、直ぐに授業に活用できる。

**JICA INFO-KIT
学校に行きたい!
～国際協力とわたしたち～**



無料
冊子

問合せ先: JICA国内機関 P89参照
豊富な写真と分かりやすい言葉で小学生向きの小冊子。国際協力の興味をもってもらう為の導入として最適。

教師海外研修バックナンバーの紹介



無料 冊子

問合せ先：JICA国内機関 P97参照
 本研修に参加した教師の実践集を収めた教材集のバックナンバーです。詳しくは最寄の各国機関へお問合せ下さい。

開発教育教材

JOCAワールド・ボックス

有料貸出 物品

問合せ先：青年海外協力協会
 貸出料金：¥3,000×ボックス数（送料別途）
 衣類は¥2,000×点数（送料別途）

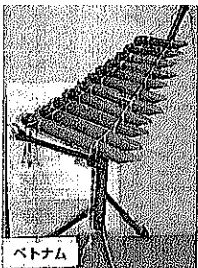
様々な国の日用品、写真、民族衣装、教科書などを実際に手にとって体験したくても、途上国の品物を手に入れるのは難しいのが現状です。「JOCAワールド・ボックス」は国別、テーマ別に民芸品や生活用品等を収集し説明書をつけた途上国理解のための教材です。インドネシア、タンザニア、中国、メキシコなど世界29カ国のBOXがあります。詳細はHPから。http://www.joca.or.jp

物品の例



ボリビア

・マンタ（ショール）やボジェーラ（スカート）などの普段着が納められています。



ベトナム

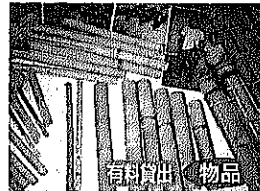
・ダン・トゥルンと呼ばれるミニチュアの竹もっさんです。分解して持ち運びできます。

国際理解教育教材 フィリピン・ボックス



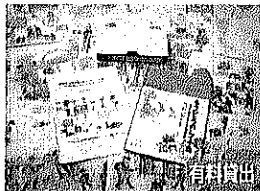
貸出料金：¥3,000
 民族衣装や生活用品など40点、写真60枚、解説や授業案などの資料。アジアの国々や国際協力などの学習の導入として、またゲストの小道具として利用できる。

フィリピン・竹の楽器ボックス



貸出料金：¥3,000
 山岳少数民族の伝統的な竹楽器6種、写真35枚、演奏方法ビデオ。

戦争と女性を考えるワークショップ・キット



製作：フィリピン元「慰安婦」裁判支援ネット・三多摩
 貸出料金：¥3,000
 世界各地で現在も続く戦争・紛争下での性暴力や平和についてジェンダーの視点に立った話し合いに。

以上3点の問合せ先：ピナツボ復興むさしのネット
 TEL 0422 (34)5498
 FAX 0422 (32)9372
 E-mail hachinoko@green.livedoor.com
 URL: http://hachinoko.ld.infoseek.co.jp

JICAはこんなことをしています

●教師海外研修

国際理解教育および開発教育に興味のある学校の先生を対象に、開発途上国で研修をおこない、今後の授業に役立ててもらうことを目的としたプログラムです。帰国後、研修で得られた経験をもとに、それぞれの教育現場において国際理解・開発教育に関する授業を实践し、その結果を授業実践報告書として公開します。本研修は、お住まいの地域を担当するJICA国内機関で研修を実施しておりますので、直接ご相談ください。

●国際協力中学生・高校生・大学生エッセイコンテスト

全国の中学生・高校生・大学生等を対象に、開発途上国の現状について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、自分たちひとりひとりがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として、国際協力をテーマにしたエッセイコンテストを実施しています。中学生・高校生の上位入賞者には、JICAが協力している開発途上国への研修旅行がプレゼントされます。大学生の上位入賞者には、欧州や東南アジアへの航空券がプレゼントされます。また、そのほかにも各種の賞を用意しています。

●国際協力実体験プログラム

JICA国内機関では、中学生・高校生や大学生を対象に研修員との交流、帰国した専門家や青年海外協力隊OB・OGによる講義やワークショップを行い国際協力について自ら考える機会を提供しています。詳細はお住まいの地域を担当するJICA国内機関へお問合せ下さい。

●開発教育指導者研修

主に学校で「総合的な学習の時間」を担当されている先生等を対象に、開発教育の担い手の育成を目的とした開

発教育指導者研修を実施しています。研修では、実際に参加型のワークショップを体験しながら、開発教育の手法や簡単な教材作成法等をわかりやすく紹介しています。本研修は、お住まいの地域を担当するJICA国内機関で実施しておりますので、直接ご相談ください。

●JICA国際協力出前講座（旧サーモンキャンペーン）

JICA職員、帰国専門家、青年海外協力隊OB・OG、来日中の研修員を全国各地の学校や地方自治体、国際交流団体、NGO講座などへ講師として派遣します。講師は自らの体験を元に、写真やモノを用いて楽しく、分かりやすく講義します。総合的な学習の時間にもご活用下さい。講師の派遣は、お住まいの地域を担当するJICA国内機関で実施しておりますので、直接ご相談ください。

●ピース・トーク・マラソン2003-2007

「一人ひとりにできること。一人のためにできること。」をキャッチコピーに、「平和」と「国際協力」について考えるシンポジウムを、2003年8月から2007年3月まで3年半の時間をかけて、47都道府県で1回ずつ開催しています。シンポジウムのタイトルは、「ピース・トーク・マラソン2003-2007」。プログラムは、「いま世界で起きていること」と題した現状の紹介、著名人による平和や国際協力に関するトークや、その地域で活躍する有識者によるパネルディスカッションなど。「肩肘を張らずにまずはできることから始めてみませんか」というメッセージを込めて企画されています。シンポジウムとは言っても、とてもリラックスした雰囲気のお会です。皆さんもぜひ遊びに来て下さい。

詳しくはJICAホームページ（www.jica.go.jp）でご確認ください。

■ JICA はこんなことを募集しています

年齢	20歳		30歳	40歳	50歳	60歳→
	(中学校生活)	(高校生活)	(大学生)	社会人		
募集内容	中学生エッセイコンテスト	高校生エッセイコンテスト	大学生エッセイコンテスト			
	青年海外協力隊 (JOCV) (募集対象年齢 20才～39才)			シニア海外ボランティア (募集対象年齢 40才～69才)		
	日系社会青年ボランティア (募集対象年齢 20才～39才)			日系社会シニアボランティア (募集対象年齢 40才～69才)		
	(個別) 専門家 (登録可能年齢 30才～59才)					
	ジュニア専門員 (募集対象年齢 25才～35才)		国際協力専門員 (募集対象年齢 35才～50才)			
	青年招へい合宿セミナー (参加者対象年齢 20代後半～40才)					

■地域国際化協会一覧

都道府県	団体名	所在地	電話番号 (FAX番号)
北海道	(社)北方圏センター	〒060-0003 札幌市中央区北三条西7丁目 道庁別館12F	011-221-7840 (011-221-7845)
青森県	(財)青い森みらい創造財団国際交流課	〒030-0803 青森市安方1-1-32 水産ビル5F	017-735-2221 (017-735-2252)
岩手県	(財)岩手県国際交流協会	〒020-0025 盛岡市大沢川原2-4-20 国際交流プラザ内	019-654-8900 (019-654-8922)
宮城県	(財)宮城県国際交流協会	〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7F	022-275-5540 (022-272-5063)
秋田県	(財)秋田県国際交流協会	〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館6F	018-864-1181 (018-864-0160)
山形県	(財)山形県国際交流協会	〒990-8580 山形市城南町1-16-1 霞城セントラル2F	023-646-6267 (023-646-8860)
福島県	(財)福島県国際交流協会	〒960-8103 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2F	024-524-1315 (024-521-8308)
茨城県	(財)茨城県国際交流協会	〒310-0851 水戸市千波町後川745 県民文化センター分館2F	029-241-1611 (029-241-7611)
栃木県	(財)栃木県国際交流協会	〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内	028-621-0777 (028-621-0951)
群馬県	(財)群馬県国際交流協会	〒371-0026 前橋市大手町2-1-1 群馬会館3F	027-243-7271 (027-243-7275)
埼玉県	(財)埼玉県国際交流協会	〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 浦和地方庁舎内3階	048-833-2992 (048-833-3291)
千葉県	(財)ちば国際コンベンションビューロー	〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 W.B.G マリビースト14階	043-297-0245 (043-297-2753)
東京都	(財)東京都国際交流委員会	〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1 都庁第一本庁舎26階南側 東京都生活文化局文化振興部事業推進課内	03-5320-7739 (03-5388-1327)
神奈川県	(財)神奈川県国際交流協会	〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 県立地球市民かながわプラザ1階	045-896-2626 (045-896-2945)
新潟県	(財)新潟県国際交流協会	〒950-0078 新潟市万代島5-1 万代島ビル2階	025-290-5650 (025-249-8122)
富山県	(財)とやま国際センター	〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階	076-444-2500 (076-444-2600)
石川県	(財)石川県国際交流協会	〒920-0853 金沢市本町1-5-3 リファール3階 石川県国際交流センター内	076-262-5931 (076-263-5931)
福井県	(財)福井県国際交流協会	〒910-0004 福井市宝永3-1-1	0776-28-8800 (0776-28-8818)
山梨県	(財)山梨県国際交流協会	〒400-0035 甲府市飯田2-2-3	055-228-5419 (055-228-5473)
長野県	(財)長野県国際交流推進協会	〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2 長野県庁本庁2階	026-235-7186 (026-235-4738)
岐阜県	(財)岐阜県国際交流センター	〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53 岐阜県県民ふれあい会館6階	058-277-1013 (058-272-8839)
静岡県	(財)静岡県国際交流協会	〒422-8067 静岡市南町14-1 水の森ビル2F	054-202-3411 (054-202-0932)
愛知県	(財)愛知県国際交流協会	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 愛知県三の丸庁舎1,2階	052-961-8746 (052-961-8045)
三重県	(財)三重県国際交流財団	〒514-0009 津市羽所町700番地4 アスト津3階	059-223-5006 (059-223-5007)
滋賀県	(財)滋賀県国際協会	〒520-0801 大津市におの浜1-1-20ピアザ淡海2階	077-526-0931 (077-510-0601)
京都府	(財)京都府国際センター	〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下る 東塩小路町901番地京都駅ビル9階	075-342-5000 (075-342-5050)
大阪府	(財)大阪府国際交流財団	〒598-0048 泉佐野市りんくう往来北1 りんくうゲートタワービル17階	0724-60-2371 (0724-60-2377)
兵庫県	(財)兵庫県国際交流協会	〒651-0073 神戸市中央区協浜海岸通1-5-1 国際健康開発センタービル2階	078-230-3260 (078-230-3280)
奈良県	(財)なら・シルクロード博記念 国際交流財団	〒630-8215 奈良市東向中町28 奈良近鉄駅ビル6階	0742-27-2436 (0742-27-2434)
和歌山県	(財)和歌山県国際交流協会	〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛8階	073-435-5240 (073-435-5243)

都道府県	団体名	所在地	電話番号 (FAX番号)
鳥取県	(財)鳥取県国際交流財団	〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110-5 鳥取空港国際会館1階	0857-31-5951 (0857-31-5952)
島根県	(財)しまね国際センター	〒690-0826 松江市学園南1-2-1 くにびきメッセ2階	0852-31-5056 (0852-31-5055)
岡山県	(財)岡山県国際交流協会	〒700-0026 岡山市泰選町2-2-1 岡山国際交流センター内	086-256-2917 (086-256-2226)
広島県	(財)ひろしま国際センター	〒730-0037 広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6階	082-541-3777 (082-243-2001)
山口県	(財)山口県国際交流協会	〒753-0811 山口市吉敷3185-1	083-925-7353 (083-920-4144)
徳島県	(財)徳島県国際交流協会	〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6階	088-656-3303 (088-652-0616)
香川県	(財)香川県国際交流協会	〒760-0017 高松市番町1-11-63 アイパル香川内	087-837-5901 (087-837-5903)
愛媛県	(財)愛媛県国際交流協会	〒790-0844 松山市道後一万733	089-917-5678 (089-917-5670)
高知県	(財)高知県国際交流協会	〒780-0870 高知市本町4-1-37	088-875-0022 (088-875-4929)
福岡県	(財)福岡県国際交流センター	〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡3F	092-725-9204 (092-725-9205)
佐賀県	(財)佐賀県国際交流協会	〒840-8570 佐賀市城内1-1-59 佐賀県庁内	0952-25-7921 (0952-25-7417)
長崎県	(財)長崎県国際交流協会	〒850-0873 長崎市諫訪町5-20	095-823-3931 (095-832-2400)
熊本県	熊本国際協会	〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1 熊本県国際課内	096-385-4488 (096-385-4488)
大分県	(財)大分県国際交流センター	〒870-0047 大分市中島西3-1-7	097-538-5161 (097-538-5162)
宮崎県	(財)宮崎県国際交流協会	〒880-0804 宮崎市宮田町1-6 県庁8号館	0985-32-8457 (0985-32-8512)
鹿児島県	(財)鹿児島県国際交流協会	〒892-0816 鹿児島市山下町14-50 かごしま県民交流センター1階	099-221-6624 (099-221-6643)
沖縄県	(財)沖縄県国際交流・人材育成財団	〒900-0034 沖縄県那覇市東町1-1 沖縄県那覇東町会館7階	098-941-6755 (098-941-6812)

札幌市	(財)札幌国際プラザ	〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNHビル3F	011-211-3670 (011-211-3673)
仙台市	(財)仙台国際交流協会	〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内	022-265-2211 (022-265-2485)
千葉市	(財)千葉市国際交流協会	〒260-0028 千葉市中央区新町1000 センシティタワー12階	043-238-8000 (043-238-8550)
横浜市	(財)横浜市国際交流協会	〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階	045-222-1171 (045-221-2210)
川崎市	(財)川崎市国際交流協会	〒211-0033 川崎市中原区木月 祇園町2-2 川崎市国際交流センター内	044-435-7000 (044-435-7010)
名古屋市	(財)名古屋国際センター	〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル4階	052-581-5691 (052-581-5629)
京都市	(財)京都市国際交流協会	〒606-8436 京都市左京区栗田口 鳥居町2-1	075-752-3010 (075-752-3510)
大阪市	(財)大阪国際交流センター	〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6	06-6773-8989 (06-6773-8420)
神戸市	(財)神戸国際協力交流センター	〒651-0087 神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館20階	078-291-0641 (078-291-0691)
広島市	(財)広島平和文化センター	〒730-0811 広島市中区中島町1-5 国際村交流センター3階	082-242-8879 (082-242-7452)
北九州市	(財)北九州国際交流協会	〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター3階	093-662-0055 (093-662-6622)
福岡市	(財)福岡国際交流協会	〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館5階	092-733-5630 (092-733-5635)

■問い合わせ先 独立行政法人国際協力機構（JICA）国内機関一覧

JICA札幌

所管地区：道央・道北・道南
 〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
 Tel：(011) 866-8333 (代)
 Fax：(011) 866-8382
 E-mail: jicasic@jica.go.jp

JICA八王子

所管地区：山梨県及び東京都23区以外の地域
 〒192-0043 東京都八王子市暁町2-31-2
 Tel：(0426) 26-5411 (代)
 Fax：(0426) 26-9954
 E-mail: jicahaic@jica.go.jp

JICA帯広

所管地区：道東
 〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2
 Tel：(0155) 35-1210 (代)
 Fax：(0155) 36-2582
 E-mail: jicaobic@jica.go.jp

JICA横浜

所管地区：神奈川県
 〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1
 Tel：(045) 663-3251 (代)
 Fax：(045) 663-3265
 E-mail: jicayic@jica.go.jp

JICA 東北

所管地区：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県
 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台
 第一生命タワービル15階
 Tel：(022) 223-5151 (代)
 Fax：(022) 227-3090
 E-mail: jicathic@jica.go.jp

JICA駒ヶ根

所管地区：長野県
 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
 Tel：(0265) 82-6151 (代)
 Fax：(0265) 82-5336
 E-mail: kjvtpr@jica.go.jp

JICA二本松

所管地区：福島県
 〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
 Tel：(0243) 24-3200 (代)
 Fax：(0243) 24-3214
 E-mail: jicanjv@jica.go.jp

JICA北陸

所管地区：富山県・石川県・福井県
 〒920-0031 石川県金沢市広岡3-1-1
 金沢パークビル3F
 Tel：(076) 233-5931 (代)
 Fax：(076) 233-5959
 E-mail: jicahric@jica.go.jp

JICA筑波

所管地区：茨城県
 〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
 Tel：(029) 838-1111 (代)
 Fax：(029) 838-1119
 E-mail: jicatbic@jica.go.jp

JICA中部

所管地区：静岡県・岐阜県・愛知県・三重県
 〒465-0094 愛知県名古屋市名東区亀の井2-73
 Tel：(052) 702-1391 (代)
 Fax：(052) 702-1397
 E-mail: jicacbic@jica.go.jp

JICA東京

所管地区：栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都
 23区及び新潟県
 〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
 Tel：(03) 3485-7051 (代)
 Fax：(03) 3485-7904
 E-mail: jicatic@jica.go.jp

JICA大阪

所管地区：滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県
 〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1
 Tel：(072) 641-6900 (代)
 Fax：(072) 641-6910
 E-mail: jicaosic@jica.go.jp

JICA兵庫

所管地区：兵庫県

〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

Tel：(078) 261-0341 (代)

Fax：(078) 261-0342

E-mail: jicahic@jica.go.jp

JICA中国

所管地区：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県

〒739-0046広島県東広島市鏡山3-3-1

Tel：(082) 421-6300 (代)

Fax：(082) 420-8082

E-mail: jicacic@jica.go.jp

JICA四国

所管地区：徳島県・香川県・愛媛県・高知県

〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1

百十四ビル13階

Tel：(087) 833-0901 (代)

Fax：(087) 837-0747

E-mail: jicaskic@jica.go.jp

JICA九州

所管地区：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・
宮崎県・鹿児島県

〒805-8505福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1

Tel：(093) 671-6311 (代)

Fax：(093) 663-1350

E-mail: jicakic@jica.go.jp

JICA沖縄

所管地区：沖縄県

〒901-2552沖縄県浦添市字前田1143-1

Tel：(098) 876-6000 (代)

Fax：(098) 876-6014

E-mail: jicaaic@jica.go.jp

以上の最寄りの国内機関にお気軽にお問い合わせ下さい。

総合的な学習の時間・選択教科に役立つ国際理解教育の手引き
「空と大地と、世界につながれ！」
平成15年度 高校教師海外研修に参加して

平成16年12月発行

発行者 独立行政法人 国際協力機構

〒151-8558

東京都渋谷区代々木2丁目1番1号

新宿マインズタワー7階

TEL 03-5352-5628 FAX 03-5352-5018

URL <http://www.jica.go.jp/>

主催：独立行政法人国際協力機構

後援：外務省 文部科学省

都道府県教育委員会(北海道 福島県 茨城県 富山県 石川県 福井県 栃木県 群馬県 埼玉県
千葉県 新潟県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府
兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県
高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県)
政令指定都市教育委員会(札幌市 千葉市 名古屋市 京都市 大阪市 神戸市 広島市 福岡市
北九州市)

